若市議公式研修in栃木

１日目那須塩原市･２日目鹿沼市

研修①

観光の取り組み：那須塩原市観光課

那須塩原市の観光の取り組みについて

市民向けに市内観光情報を広報にて特集（主に温泉情報）
→市民が発信源になる。

・スマホ向け観光情報誌：ココシル
・メディアPRとして、JR車内誌、JAL機内誌、東京駅＆大宮駅の巨大ポスター
・リピータ拡大の為：ハナモモの植栽
・観光と食のリンクを強化：イチゴとミルク
・生乳生産が本州１位＆48年連続イチゴ収穫１位
・朝食一品物語たり：地域全体の朝食のレベルアップ→旅館での誘客取り組み
・毎月２６日はふろの日で温泉無料
・周辺自治体とリンクして温泉手形事業

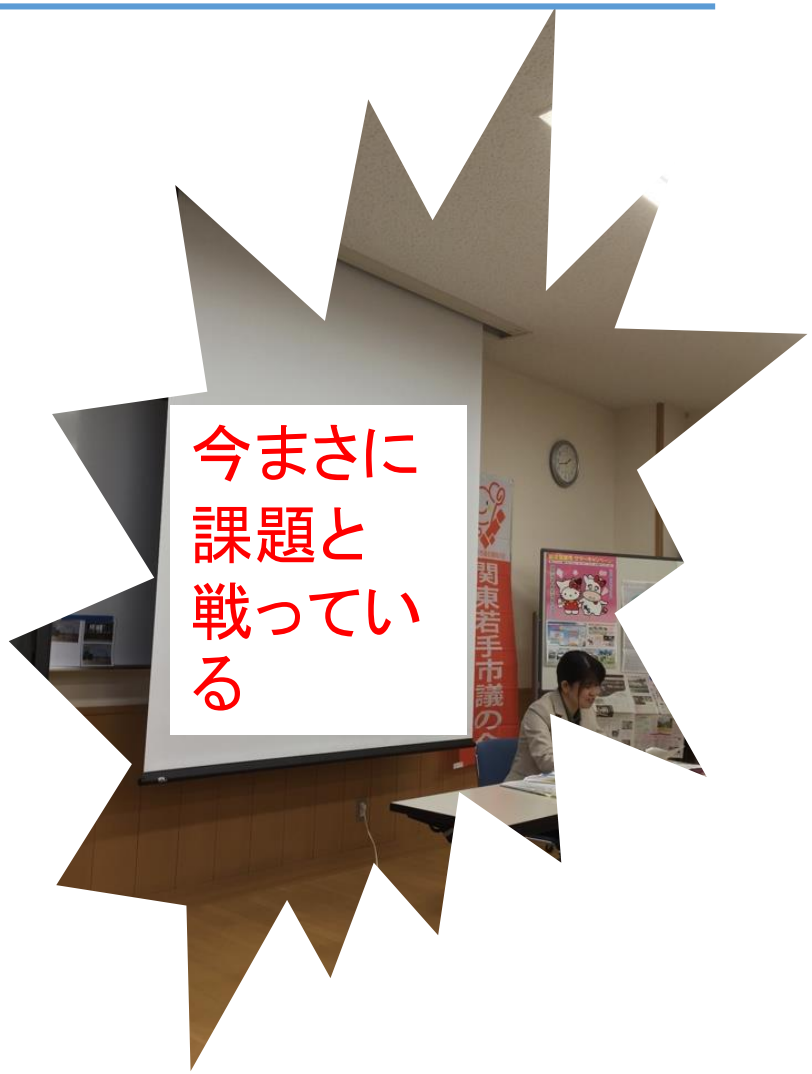
現状

毎年入込客の減少は顕著
H25年：民間から行政に雇用を生む条例制定→庁内の意識改革につながる
→温泉資源を利用した観光戦略の構築
→首都圏の中高年層をターゲットとしたPR戦略
合意形成に時間がかかる（行政だから）

H27年：観光局設立→H29法人化
行政の限界値を行政で認めたので、行政と民間と元々の観光協会3つを合併を目標
・日本人の定番を再把握する→那須塩原の特別感をだす。
・企業タイアップを利用したPR強化
・国の観光立国に乗っかる→日光もある強み
・日本国内で100地域認定→立候補している3回目

課題

- 那須町と日光に観光客は流れる。
  →那須＝那須町で那須塩原ではない為、
  那須を外して塩原温泉や板室温泉としてPR
  している。
- 那須牛もあるのに太田原牛が有名・・・
- 日光から那須塩原へのインフラの整備が
  不十分



研修①質疑

質：那須町と日光の中間なので強みだと思うが、連携は取れているか？

答：おもて向きナス手形では一緒にやっているが、不十分。今後那須野全域でのPRの強化が必要。日光とは十分な連携はまだできていない。塩原温泉を利用してもらいたい。

質：観光局と観光協会が分かれているが、合併できないのは？

答：会費の違い、会員数の違いもあるが、観光産業が元々あるので、各地域の個性がなくなる可能性がある認識が強い為、もう少し時間がかかる。
世代交代済みの地域OKである。補助金は局の方へ集約している。

質：観光局の財源構成は？

答：現在はほぼ市の補助で成り立っている。当初市の職員が事務局なのだが、今後は法人化に伴い市の職員は派遣していかない。一定額の補助は続けていく。
委託ではなく補助金。

質：観光課と観光局のすみわけ？

答：一体的なイメージだが、PRや事業は専門的になるので観光局、異分野との連携、交通の整備などは行政のか観光課。

質：局の支部として協会が成り立っているのなら、合併はいらない？

答：現状の体制なら、このままで良いが、観光協会への市からの補助はなくなる為、そもそも観光協会の必要性が議論されている。事務的な簡略化の為に一本化したい。

質：各地域団体から個人への旅行客の変化となり、対応に苦労している。オールドツーリズムへの対応？今後のビジョンは？

答：ニューツーリズムとしてターゲットを絞ることも1つだが、昔ながらのオールドツーリズムを磨きなおしてそれが屋台骨になる。なにが那須塩原の強みと考えたときに、温泉になる為オールドツーリズムを磨き上げることが大切

研修①質疑：続き

質：アウトレットにきた若年層の取り込みは？

答：日帰りが多いので、観光局が案内機能を集約してアプローチしていく。（旅行業第3種もとれたので）自主財源も増えるし・・・

質：バブル後の塩原温泉の破たんが県民意識にある。目標の指数や具体的な費用対効果は？

答：市の総合計画の一部にあるが、入込客数だけでなく満足度や1名当たりの消費額を上げていくことが必要。小中学生が総合授業の一環で観光PRをしている。

質：局の支部として協会が成り立っているのなら、合併はいらない？

答：現状の体制なら、このままで良いが、観光協会への市からの補助はなくなる為、そもそも観光協会の必要性が議論されている。事務的な簡略化の為に一本化したい。

質：各地域団体から個人への旅行客の変化となり、対応に苦労している。オールドツーリズムへの対応？今後のビジョンは？

答：ニューツーリズムとしてターゲットを絞ることも1つだが、昔ながらのオールドツーリズムを磨きなおしてそれが屋台骨になる。なにが那須塩原の強みと考えたときに、温泉になる為オールドツーリズムを磨き上げることが大切

質：アウトレットにきた若年層の取り込みは？

答：日帰りが多いので、観光局が案内機能を集約してアプローチしていく。（旅行業第3種もとれたので）自主財源も増えるし・・・

質：バブル後の塩原温泉の破たんが県民意識にある。目標の指数や具体的な費用対効果は？

答：市の総合計画の一部にあるが、入込客数だけでなく満足度や1名当たりの消費額を上げていくことが必要。小中学生が総合授業の一環で観光PRをしている。

感想

研修１は『観光への取り組み』というタイトルの為、実際に研修に来ている側へのPR活動を含めてのものとなっていた。

都留市同様、日光＆那須町という大きな観光地にほぼ隣接しているが、それを活かしきれずに通過する町になっているとの印象であったため、それらの課題を受け入れどの様に対策していくかというところが興味深い。やはり課題としては道路環境の整備と、『那須』というブランドネーム＝那須町ということであるが、それらを受入れ『那須』を捨てての那須塩原市自体のブランディングは興味深い。

現状では市内の温泉名のブランディング化を目指しつつ、日光＆那須との広域的な目を持っていくことは大切である。

また観光局を新たに設置し市内にある観光協会や庁内観光課との集約化と住み分けができていないので、それらを機能させていくことで可能性は大きく広がると思う。

小中学生が総合授業の一環として、観光PRをしているという試みには今後興味を持てまた、新幹線の駅があるという大きなアドバンテージをどのように活かしていくかは注目していきたい。

感想その2

研修の時期としては、最高のタイミングだと感じた。
今、スタートした新しい試みを見れた

ポテンシャルはある環境
今後成功事例として再研修をできることに期待

研修②

シティープロモーション

はじめに

１つの街でブランド牛乳６本
東京のイベントで売れない・・・
おいしいのに。（当時7ブランド）

そこで

飲み比べしたら売れた！

同じものでもやり方で変わる事を発見した！

- 30秒くらいのCM7種類で沢山作成

→面白いCMで市のPR

子育て、教育、雇用、交流、結婚、暮らし、広報＝7つのKが戦略

WEB公募サイトでキャッチコピーを作ってもらう募集を利用で那須塩原市を見てもらう。

地元民も参加したCMで興味を引く

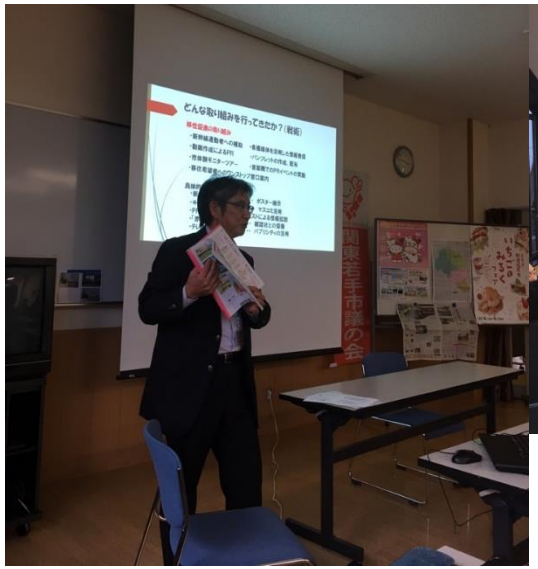
→市民参加型CM

アクセス数はYoutubeでまだまだ

目的

- 目的
  町でマジな人を増やそう！
- 定住促進をコンセプト

シティープロモーション課を設置
→まちひとしごと創生事業の一環として！



目標値

生産年齢人口60％以上
LOVE市８０％

戦略

移住と定住の戦略を別に考える

＝

人口のダムを作る

1. 移住促進：首都圏を中心とした若者・子育て世代をターゲットにする。
2. 定住促進：市民が住み続けていくための取り組み

戦術

定住促進

- ３世代同居等補助金（10万円）
  →直接の効果より情報拡散の為の戦略で住宅系企業がPRするように仕向けた。
- 移住促進事業への市民協働
  →動画、雑誌を市民参加させシビックプライドの醸成を図る。

※シティープロモーション指針で市民を対象としたことを明記している。

「Settled Down」「Promote」「Action」「Committee」
定住促進実行部隊『SPAC』の誕生（20名）

～定住促進活動は継続し強化する事～

移住促進

- 通勤補助（12万円/年）JRがポスターをすべての駅で無料張り出し
  ※位置関係を把握してもらう為
- 市出身芸能人などと都内にてPRイベント開催など
  →マスコミを集める業者を利用
  →FMに番組を作ってもらう
  →有名ブロガーを利用
  結果20,000人の動員と経費1000万円
- 流山市の例を参考にリクルート社（赤すぐ）とタイアップして雑誌に掲載
  →景品を出して個人情報GET
- NHKの興味の引く関係づくりをした
  →NHKがやれば民法は取材に来る

具体的な取り組み

- 移住促進
  →小山市と那須塩原市の広域連携
  →地方創生交付金を活用（3000万円）
  →アウトレットなど現地でのPR強化

- 定住促進
  →官民連携でのチーム設立
  →市民による情報発信
  →市民主体イベントの開催

※市民の市民による市民の為のまちづくり母組織の形成

豊富なアイデア、市民目線、自分事化への期待

研修②質疑

質：組織体制は？

答：シティープロモーション課設置前は広報は別の課にあった。広報係：広報誌作成、プロモ係：外回り営業。

質：SPACの活動は？

答：3班体制で自分たちでテーマ設定し活動（7名程度）：データベース化班、認知度向上班などで掘り下げていく。
形にすることを目的にしている為モチベーションの維持ができる。チームは時間外活動。

質：プロモーションの委託はしているか？

答：していない。東海大学の河合先生のアドバイスを基にやっている。やることが目的ではなくやったあとが大切という考え。

質：小山市とのタイアップは？

答：これとPR動画に関しては委託している。

質：動画中のフォントは？

答：自分たちで検討してやり、動画の作成自体は委託。

質：政権交代があった場合は？

答：計画自体は毎年見直しになってしまうが、数値目標の変更はあるが基本方針や戦略はそのまま維持した。

感想

移住施策として①メディア　②公共交通　③芸能人という若者などへ周知しやすいものに焦点を当てた広報活動は有効であると感じた。

また市PR動画も『笑える』ものにすることで何かのきっかけで広がる可能性もあり、明るい街の印象に好感が持てた。

同じくPR動画に地元の一般人を起用することで、市民意識も高まると感じた。

これらの活動は定住促進にも直結してくる『明るい街那須塩原』であることが想像でき、研修①の観光施策にもつながる。

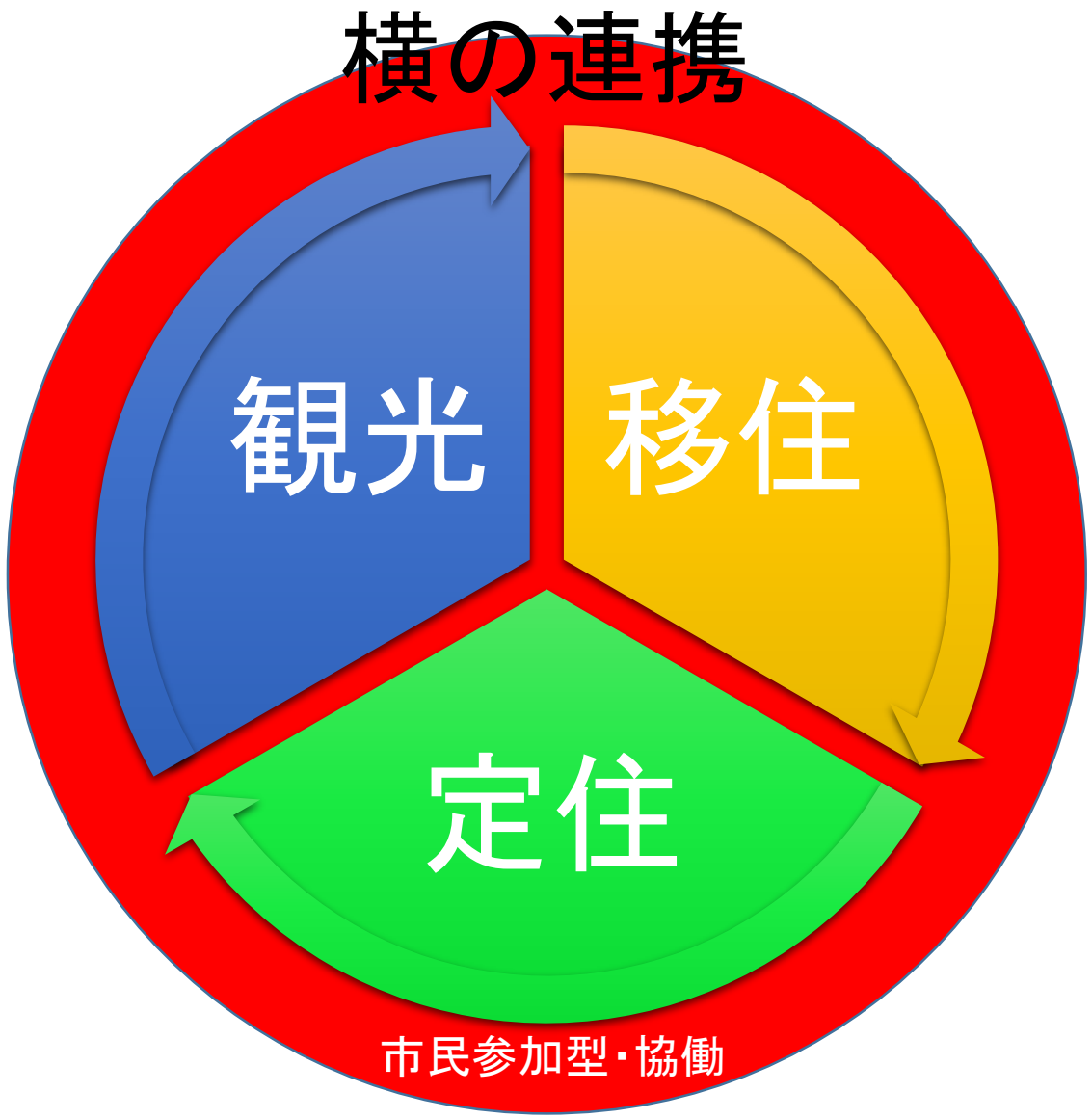
≪横の連携≫

とやっている人の楽しみが伝わってくるもであった。

感想

右の図の3つが連動して動ける体制があと少し出来上がるような期待感がある。

※シティープロモーション課の今まで熱く事業を進めている。担当の粟野さんが移動したとき継続できるのか？
都留市でもそうだが、各自治体に担当者がいなくなった時のその事業の継続性とクオリティーの維持と気持ち面の不安と同じような感覚。



特別支援教育の推進

鹿沼みなみ小学校

実態

生徒数１７９名

児童養護施設約１割

外国籍生徒

要保護家庭約１割

発達障害多数

→学校荒れ、二次障害

過去には自傷行為をする学生もいた為特別６組なる教室にて窓が開かない教室も設置していた。

子供→学校に馴れるのではなく、学校が子供に馴れる教育方針。

スクリーニング検査を実施→今年度より2学年前のレベルのテストを全生徒に実施。

特別支援コーディネーター2名配置し、必要があればすぐに会議の実施。
→3カ月以内に評価フォローをしている。

複数指導の実施→行政のサポート（加配教員）
校内電話で職員室にすぐに電話（SOS）→脱走した生徒などの対応をしていた。

３段階支援

第１次支援→2次→3次と段階的支援をしている。
①-Aユニバーサルデザインの授業
・学ぶ楽しさを覚えさせる
①-Bマルチ知能理論の導入
・学級経営として立腰教育
・選べる授業
②-Aパワーアップタイム
・朝15分間の学習
・集団と小グループによる指導
③個別化で専門的な支援
・できないことへの抵抗感を持っている生徒が多い
→特性に合わせた指導方法や教材の開発

３段階の教育で集団から小グループそして個別までを対応している。

劣等感を持った児童への対応、指導

外部機関との連携として
児相、大学などと連携をしている。
パワーアップタイムでは
脱走した生徒なし

ことばの時間

多層指導モデルMIM教材(学研)ガイドブック付き18,000円を用いた指導について

市教員への報告し情報の共有

Multilayer
Instruction
Model

簡単に短時間でできるシステム
全体から個への対応と効果的な指導をするもの。

ことばの時間（南小学校オリジナル）

実態として
・読み書きができない
・語彙がない
・説明のしにくさ
コミュニケーション力の無さ
など

学習意欲の向上→学力の向上
気持ちの表現の向上→トラブルの減少

授業構成が通常と反対（写真あり）

ことばの時間

ことばの時間は余剰時数を使うため

１年：２時間/週

２年：１時間/週（２学期まで）

上記学年の全生徒が受講しており、
特別支援学級の生徒も入っている。

新入学生の読みの実力差を注視

参観にいつでも来れる。
※同じ授業を行うことがない

3次→1次→2次の順番で視察

全生徒（1年→2年3学期）まで講習を受ける
5分程度1つのペースでカリキュラムを組んでおり、飽きさせない授業になっている。

質疑

質：学校の特色が強いが、世間の反応と入学希望者は？

答：子供の反応重視だが、保護者理解はできている。今までの実績。入学希望者は区割りなので、そのまま。

質：各種障碍などの生徒の卒業後のフォロー体制

答：小中連携は、情報交換は行っているがまだ不十分。ギャップ対応は今後の課題。

質：名前の呼び方がみんな明日の名前＋さんはなぜ？

答：敬語の指導と平等性（元々荒れていた事もある。）

質：レベルアップのモチベーション？

答：子供に1次2次3次の意識がない。（教員にも無い）シャッフルが頻繁。

質：教員の移動の際の子供の反応。（公立校故のもの）

答：危機感が高い。最初は授業にならない。今までのやり方が通用しない学校という理解が教員間で出来ている。
　危機感の共有努力⇒担任に偏らない。

質：教員負担と業務改善？

答：教材の準備の負担は大きいが、やった方が子供が荒れないので楽。5倍くらい。

質：他少学校でもやるべきか？

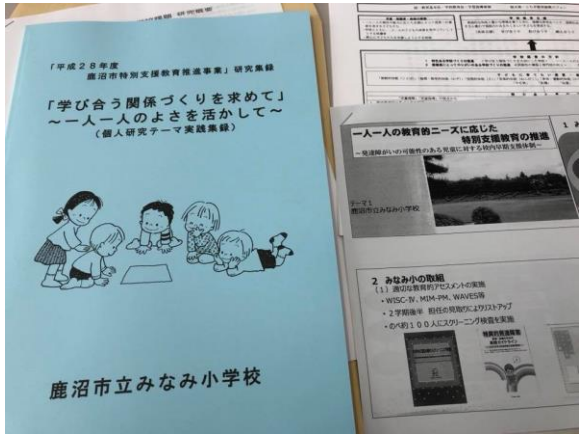
答：通常なら国語の時間でやる。どの学校でもというわけではないが重要。

質：生徒数の違いで大規模校でも可能か？

答：実態に応じてやっていることで、各校の実態に基づく発想が必要。

質：加配の先生の数は？

答：児童指導加配、日本語教室加配、通級指導加配、市担3名、県1名



感想

鹿沼みなみ小学校は1つの教育のモデルとして充分な研修内容であり、学習支援以外の分野にも応用できることが多く隠されているものであると感じた。1年～2年の早期にやることが大切！！

一般的な指導方法＝隔離型

学習障碍児童
発達障碍児童

→

劣等感から内気になる、荒れてくる。
いじめに繋がったり、問題を起こしやすくなる

鹿沼みなみ小学校＝全員参加型

学習障碍児童
発達障碍児童
一般児童
外国籍児童

→

全員同じ教育を行うことで、子供・父兄の間で劣等感が生まれ辛い。

比較（感想）

一般的

1. 隔離教育による差別
2. 児童間、親での潜在的いじめ
3. 児童の劣等感
4. 授業が苦痛（解らないので）
5. 座らされる、聞くだけ

鹿沼みなみ小学校

1. 全員教育で平等
2. 誰が学習障碍か分かり辛い
3. 寧ろ個別クラスを希望する
4. 授業が楽しい（解るから）
5. ゲーム感覚でできる

余剰時間に行う特別支援教育で、学習障碍・発達障碍などにならずに就学できる可能性が大幅に上がるのでは？昔は両障碍の言葉すらなかった為、大人になるまでずっと普通であり、幼少時・若年期の劣等感を感じ辛い環境ができていたのでは・・・
子供の教育においては気にしなければ、言葉がなければということもplusに働くこともある上、そうであっても早期に治すことができる可能性に大きく期待できるものであった。

施設リノベーションと商店街再生について

鹿沼市

視察①山車とお祭り

鹿沼の世界無形文化遺産である、鹿沼秋まつりの山車を見学しました。
木工の町鹿沼の木彫りでできた山車です。
戦国の後、衰退した鹿沼宿が旱魃にあい、今宮神社にて３日３晩雨ごい祭りを続け雨を降らせた。

雨が明けた日を宵祭り、翌日を例祭としたみたいです。

祭りは研修前週に終わっていたので、山車のみを見学しました。

7台の屋台が市内にあり、今宮神社から各町へ向かうようです。

都留市の山車とはまた違った大迫力の山車です。

視察②ネコヤド商店街散策

台風の影響で看板（地図）が半分落ちています。

こちら一帯をリノベーションし再生をしております。

所謂商店街をイメージしておりましたが、どちらかというと古い住宅街をリノベし商店街化している印象です。

今宮神社を筆頭に神社が沢山ありパワースポットとしても観光的側面からの活性化も期待できそうでした。

また、宮崎駿監督が疎開時住んでおり、トトロの聖地の可能性も！そのような木とかもありました。

視察③根古屋珈琲

講師の風間さんの自宅？らしき敷地内にある珈琲焙煎所です。

中を覗くと焙煎中でとても良い匂いがし、レトロな佇まいで視覚でも嗅覚でも楽しめる場所です。

視察④昼食
＠カフェ饗茶庵

カフェ饗茶庵にて昼食、こちらのカフェも施設リノベーション。

カフェなので軽食とおいしいコーヒーが楽しめます。またカフェ内には、周辺のお店のリーフレットなども沢山あり、みんなで地域活性をしているということが伝わってきます。

食事はカレー、オムライス、オムカレー、キッシュ、田舎サンドとドリンク。

研修なので、メニューの把握ができていませんが、全部おいしそうでした。

視察⑤CICACU

最後の研修地です！

こちらが施設リノベーションと商店街再生のメイン。

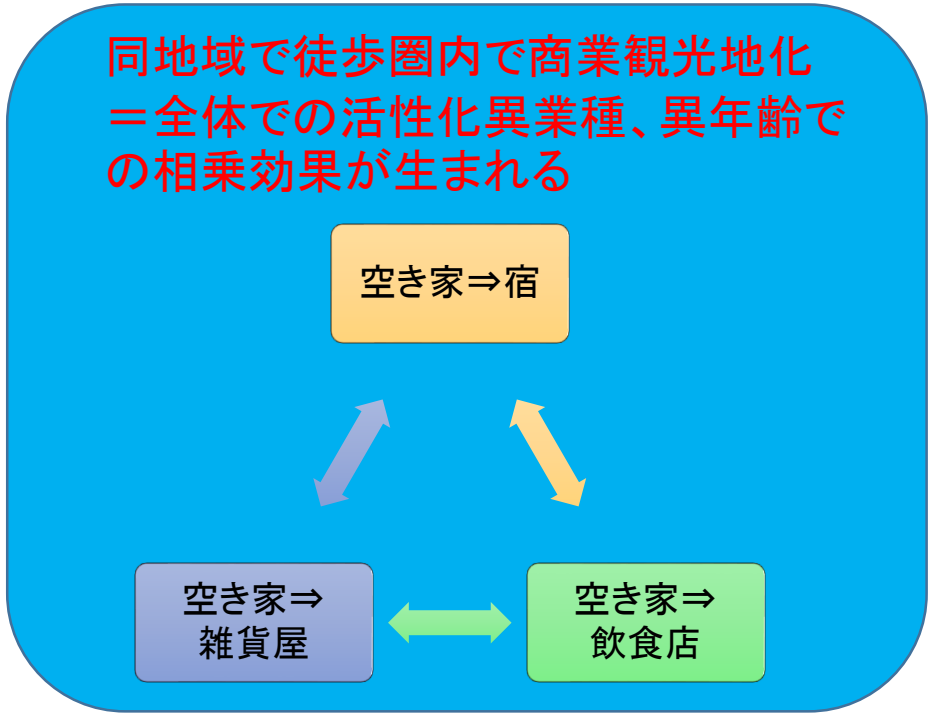
こちらは廃旅館をリノベし、バックパッカーやホステル見たいに再活用しております。

集客方法はAirB&Bなどの集客予約サイトと思いきや、HPからが多いということです。

山梨組２人はこの後の予定の都合で質疑までは居られず・・・

感想

鹿沼自体のポテンシャルの高さには今後の期待値は高いと思ったが、高速道路からのアクセスの悪さとJR駅から研修地までの遠さが課題だと感じた。

協働のまちづくりという言葉が先歩きしているが、今回の研修で協働のまちづくりを通して参加する個々が利益を得るということ、≪やらされる⇒やりたい≫に代わる1つではないか。

研修と通じてリノベ後しっかりそのあと活躍をしていける場所になり、そこから周辺に新しい産業ができ更なる地域活性となる可能性を見いだせる。